

小学部の各教科の改訂の内容はどのようなことか。

① 生活科の改訂の要点

- 目標は、従前どおりである。
- 各段階の示し方を分かりやすくするとともに、児童の知的障害の状態等を踏まえ、より一層見通しをもって主体的に活動できるよう、内容を追加するなどの改訂を行った。
- より一層見通しをもった活動を重視する観点から、新たに『日課・予定』の内容を設けた。
- 『基本的生活習慣』では、分かりやすく平易に示すため、「身辺生活の処理」を「日常生活に必要な身辺処理」と改めた。
- 『遊び』では、実際の指導内容から、「遊具の後始末」を「遊具の後片付け」と改めた。
- 『交際』では、具体的な指導内容が設定できるよう、「感謝の気持ちやわびる気持ち」を「気持ちを伝える応対」と改めた。
- 『きまり』では、他の内容との関連から、「学校生活の簡単なきまりに従って」を「教師と一緒に日常生活の簡単なきまりに従って」と改めた。また、実生活においては迷惑をかけない行動や作法なども大切なことから、「きまり」を「きまりやマナー」に改めた。
- 『公共施設』では、交通機関などの指導も重要であることから、「公共物」を「公共物など」に改めた。また、児童の知的障害の状態等を踏まえ、「身近な公共施設や公共物の働きが分かり、それらを利用する。」を「身近な公共施設や公共物などを利用し、その働きを知る。」と改めた。

② 国語科の改訂の要点

- 「伝え合う力」を重視し、国語表現の力や態度を育てる視点から、目標を「日常生活に必要な国語を理解し、伝え合う力を養うとともに、それらを表現する能力と態度を育てる。」と改めた。
- 内容は、「聞く・話す」、「読む」、「書く」の各観点について、児童の知的障害の状態等を考慮し、より分かりやすくする視点から改めた。
- 『聞く・話す』では、１段階との違いを明確にし、内容をより分かりやすくする視点から、２段階の「教師や友達などの話し言葉に慣れる。」に「簡単な説明や話し掛けが分かる。」を加えた。また、目標を踏まえて、伝える内容の例示を増やし分かりやすくする視点から、３段階を「自分の気持ちなど」を加えて「見聞きしたことなどのあらましや自分の気持ちなどを教師や友達と話す。」に改めた。

③ 算数科の改訂の要点

- 目標は従前どおりである。
- 児童の知的障害の状態等を踏まえ、１段階について、より初歩的、具体的な指導内容が設定できるようにする視点から内容を改めた。
- 『数量の基礎』の１段階では、児童の知的障害の状態等に即し、内容が分かりやすく具体的な学習活動を設定しやすいよう、「具体物の有無が分かる。」を「具体物があることが分かり、見分けたり、分類したりする。」と改めた。
- 『量と測定』の１段階では、２段階の内容を考慮し、より具体的な指導内容を設定できるよう、従前の「身近にあるものの数量に関心をもつ。」の「数量」を「大小や多少など」に改めた。

④ 音楽科の改訂の要点

- 目標は従前どおりである。
- 近年、学校において効果的に使用されている楽器等を考慮するとともに、児童の主体的な動きや実際の活動を重視する視点から内容を改めた。
- 『音楽遊び』の１段階では、児童の興味・関心を踏まえ、幅広い指導内容を設定できるようにする視点から、「音の出るおもちゃで遊んだり、扱いやすい打楽器でいろいろな音を鳴らしたりして楽しむ。」における「打楽器」を「打楽器など」と改めた。
- 『鑑賞』の２段階では、楽器の音だけではなく、生活の中の様々な音を聴くことも重要な指導内容であることから、「好きな音楽を聴いて楽しむ。」を「好きな音や音楽を聴いて楽しむ。」と改めた。
- 『身体表現』の２段階では、児童の実態を踏まえ、より初歩的な内容の設定が重要であることから、「友達や教師とともにリズムの特徴を感じ取って身体を動かす。」の「リズム」を「簡単なリズム」と改めた。
- 『器楽』の２段階では、児童の興味・関心などを踏まえ、楽器の種類を増やすとともに、初歩的な合奏など、幅広い指導内容を設定できるようにする視点から、「いろいろな打楽器を使ってリズム遊びなどをする。」を「打楽器などを使ってリズム遊びや簡単な合奏をする。」と改めた。

⑤ 図画工作科の改訂の要点

- 目標は従前どおりである。
- 児童の知的発達の状態等を考慮し、材料を例示するなど、より具体的な活動が設定しやすいよう、内容を改めた。
- 『造形遊び』の１段階では、具体的な指導内容が設定できるように、「身近な材料をもとに造形遊びをする。」の前半部分に「土、木、紙などの」を加えた。
- 『材料・用具』の２段階では、材料や用具を加えて分かりやすくするため、「身近な材料や用具を親しみながら使う。」の前半部分に「粘土、クレヨン、はさみ、のりなどの」を加えた。
- 『鑑賞』の３段階では、初歩的な鑑賞の内容として、具体的な指導内容を設定できるようにする視点から、「友達と作品を見せ合ったり、造形品などの形や色、表し方の面白さなどに気付いたりする。」と改めた。

⑥ 体育科の改訂の要点

- 目標は従前どおりである。
- 児童の知的障害の状態等を考慮し、より具体的に活動を設定できるようにする視点から、内容を改めた。
- 小学校における体育科の内容との整合性に配慮し、観点の「基本の運動」を「基本的な運動」と改めた。
- 『基本的な運動』の１段階では、教師と楽しく体を動かし、いろいろな動きや運動に親しむことも重要であることから、指導内容を広げることができるよう、「教師と一緒に、楽しく手足を動かしたり、歩く、走るなどの基本的な運動をしたりする。」と改めた。
- 『基本的な運動』の３段階では、より具体的な指導内容を設定しやすくする視点から、「歩く、走る、跳ぶなどの基本的な運動を姿勢や動きを変えるなどしていろいろな方法行う。」と改めた。
- 『運動遊び』の１段階では、児童の知的障害の状態等や他の教科における同段階の内容を考慮し、「いろいろな器械・器具・用具を使った遊び、表現遊び、水遊びなどを楽しく行う。」と改めた。
- 『きまり』の１段階と２段階では、中学部・高等部と表現を統一し、後半部分の「運動する。」を「運動をする。」に改めた。
- 『きまり』の３段階では、より具体的な指導内容を設定しやすくする視点から、「いろいろなきまりを守り、力を合わせて安全に運動する。」の後半部分を「友達と協力して安全に運動をする。」と改めた。